

山梨県歯科医師連盟

連盟ニュース

第24号

□発行
山梨県歯科医師連盟
甲府市大手1-4-1
TEL055-252-6481

□発行人 内藤敏雄
□編集人 守屋直木

山梨県歯科医師連盟機関紙

時局講演会開催される

平成二十二年十二月十一日(土)午後二時よりホテルクラウンパレス甲府にて山梨県歯科医師連盟主催時局講演会「米国の東アジア戦略―尖閣衝突事件がもたらしたものの―」という演題で東京財団上席研究員の渡部恒雄先生にご講演いただいた。この講演は歯科医師会会員以外にも呼びかけたところ関心の高い演題だけに一般の方も30名程が来場され会員も60名以上の方が熱心に聞き入っていた。

一瀬明連盟理事長の司会のもと主催者を代表して内藤敏雄会長が「緊張する東アジア情勢から私達の安心・安全な生活の土台となる国家の安定について考えるべく本テーマを設定した」と開催の主旨を述べられた。続いて秋山成二副理事長から講師の紹介がされ早速講演に入った。

講演では10年以上におよぶ米国のシンクタンクでの経験をもとに「オバマ政権の東アジア政策の布陣、オバマ政権への見方、日本は今後どうすればいいか」などについて講演をいただいた。

質疑応答では雨宮光昌先生、跡部芳彦先生、一般の方から普天間問題、憲法改正、北方領土問題などの質問が出た。これに対し渡部先生から日本の安全保障上日米同盟は重要であるが、日本自身の防衛努力が必要、日本のGNP比の防衛費は少ない。日本の核武装は割高の上、軍事上もメリットが少ない。憲法九条の改正はいずれ必要だが改正のためのハードルが高いため現状の憲法解釈で十

分対応できる。北方領土については四島一括返還か二島先行返還か日本側の対応をはっきりして交渉に当たすべき。また、自身の政界転進については、民主党は同一選挙区からの世襲は認めていないのでその意思はないが、他党、他地域からの出馬については含みをもたせた。

現在の日本および周辺諸国の状況を踏まえ分かりやすくお答えいただき大変有意義な時局講演会であった。

正歯会 横内知事を囲む会を開催

平成二十二年十一月二十日(土)アピオ甲府において「正歯会」横内知事を囲む会が開催された。当日は50名以上の歯科医師会会員及び技工士連盟、歯科衛生士連盟、歯科材料商組合など関係各団体の方々が集まり、四年間の県政への取り組みと今後の展望について知事のお話を伺うとともに活発な意見交換が行われた。

一瀬明連盟理事長の司会のもと依田竹雄副会長の開会で開式した。主催者を代表して内藤敏雄会長より地域医療及び歯科医師会が進める各種事業に高いご理解とご尽力を頂いていることに感謝の言葉が述べられた。また次期知事選に対しては正歯会および歯科医師連盟として全面的に横内知事を支援していくと述べられた。

続いて来賓を代表して三塚憲二県歯会長が挨拶された。歯科医師会として今後力を入れていく在宅歯科診療の拠点となる東部北麓地域への口腔保健センターの建設、また地方再生交付金の歯科分野への充など歯科に対する高配に感謝の言葉が述べられた。

来賓紹介の後、横内知事よりご挨拶をいただき「歯の健康が全身の健康につながることを、ご自身29本の歯が健在であることをユーモアを交えてご披露され、今後も歯科医師会と行政二人三脚で県民の健康寿命延伸のために全力を尽くしていきたい」と述べられた。

続いて知事との対話として田中隆先生が県内における医師不足の状況について質問された。

知事のお答「奨学金制度等により地域への定着を図り効果を上げつつある。研修医の獲得にも大学と協働し他県での取り組みも参考に医師不足に対応しているところである」。

その他、観光と地域活性化などへの質問にも現在の状況、今後の取り組みについて分かりやすくご説明頂いた。

時間も差し迫り、角野賢造副会長の閉会により囲む会は閉式した。場所を懇親会場に移し小屋忠嗣先生のご発声により乾杯、懇親会が行われた。和やかな雰囲気の中、安居尚美先生より知事へ花束の贈呈、今後の更なる知事のご活躍を祈念して鶴田好幸先生の力強いご発声で万歳三唱をおこなった。

懇親会では知事と膝を交えた意見交換、記念写真を撮る姿も見られ盛会の内に終了した。

一瀬理事長県議選出馬へ

一瀬明県歯連理事長は平成二十二年十一月二十五日開催された県歯連理事会の席上、来年四月に行われる山梨県議会議員選挙、「中央・昭和」選挙区に民主党推薦で出馬する旨を表明した。それに受けて理事会では一瀬理事長を県歯連推薦とすることを決定した。また、同時に日歯連にも推薦要請を行った。

現在、「中央・中巨摩(昭和)」選挙区は定員が二名で現職の河西敏郎氏は、既に再選出馬を表明しており、河西・一瀬両氏の他に立候補者が出てくるのが注目されるところですが、県歯連としては一瀬理事長を支援していく方針であります。

一瀬理事長立候補の抱負 立候補の挨拶

今回、山梨県会議員選挙に、立候補することを決意しました。選挙区は、中央市(旧田富、玉徳町、豊富村)昭和町です。

私が議員になろうとしたのは、12年前に、地域の中で起こった、産業廃棄物処理場問題に委員長として三年余り取り組み、住民が一致団結して、勝利を勝ち取ったことがきっかけとなりました。そのとき、行政は、住民の味方にはなってくれず、逆に、計画を進めることをしてきました。地域の中で、頼りになる議員がいれば、こんな問題も起こらず、私たちの運動ももっとやりやすかったと痛切に感じました。地域の住民から、推される形で、議員になり、診療をしながら議会活動をしてきました。

これからも、診療を続け、医療の現場の声を県政に届けるよう努力し、歯科医師会と県政とのパイプ役をめざします。会員の皆様の協力をよろしく願います。